



会長年頭あいさつ

会員各位におかれましては穏やかな新年を迎えられたこととお喜び申し上げます。改めて本年も昨年同様よろしくお願い申し上げます。

本年は未年です。羊は集団で行動します。これは他の動物から身を守るための行動とされておりますが、その様な観点から、この干支の年は団結力、纏りの良い年に例えられています。

私たち五ツ又自治会も皆様のご協力とご支援の下、協調しながら自治会活動を進めて行きたいと存じます。

さて、すでにご高承のとおり、阪神・淡路の大震災から20年が経ちました。昨今では南海トラフにおける地震の発生確率がかなり高くなっておりまして、あちらこちらで火山活動が活発になっております。大変に心配です。だからこそ日頃の備えが大事であります。特に隣近所とのお付き合い、そして自治会との連携は必須です。どうか皆様から、自治会に未加入の方には是非この機会に加入をすすめて頂きたいと思っております。災害は無いほうがよいと思いますが、災害時の共助を更に推進していきたいと思っております。



結びにあたり、諸先輩が築いて頂いたこの素晴らしい五ツ又を私たちが継承し子供たちの思い出の故郷となるよう、「安全で安心して住める五ツ又」を維持し、更に構築をしてまいりたいと思っております。本年も理事・役員一同自治会活動に精励致しますので会員各位のご協力の程宜しくお願いいたします。



熱く厚く26年

川越市には、平成24年1月1日現在473人の民生・児童委員がいて、生活困窮者などの自立更生に必要な相談や指導を行っています。疾病、失業、心身の障害、児童問題、母子家庭、高齢者など生活上のさまざまな問題で困ったとき、対策を一緒に考えてくれます。この事業は各自治会が任意で実施しているのではありません。厚生労働省の所轄の国家事業です。

五ツ又には4人の委員がいます。田中幸子、高橋修一、尾木とよ美、松本良夫の4氏です。この方たちにとって「委員」は名譽の肩書ではありません。彼らはいつも自分の周囲に対し目を配り、

問題があれば何をすべきかを考えています。その真摯な行動には頭が下がります。ただ民生委員の働きかけに恥と思うのでしょうか、当事者が個人情報保護法を盾に対応を拒否することがあります。その結果たとえば認知症初期の方は早めに処置をすれば進行を遅らせる可能性があったのに時期を失ってしまったなどという事例があります。民生委員は多くの事例に通じているのですから困惑しているはずの当事者より、問題の処理能力は高いはずです。個人の情報をばらまくために民生活動をするはずがありません。個人の秘密は保持されるので心配無用です。一人で思い悩まず相談しましょう。

さて、この仕事を平成元年から連続して26年間も続けてこられた委員が五ツ又にいます。2区の田中幸子さんです。その長年の功績に報いるべく昨年末、厚生労働大臣から感謝状をいただきました。決して容易ではないことをほぼ四半世紀にわたり活動してきたのはなぜでしょう。その思いを推し量ることはできませんが、少なくとも自分の住む地区のために何かをしなくてはならないという思いが彼女を駆り立てています。



面白くてやめられません

今年度グラウンドゴルフ大会は、平成26年11月16日（日）、南部公共広場で開催されました。天気もよく暖かな日でした。参加者は老若男女76名でした。

戦績は、大人の部では優勝 町田とくさん、準優勝 星野 勝さん、3位 麻野武芳さん、大人子供混成では優勝 川瀬真理子さん、準優勝渡辺 宏さん、3位 岡ひろえさんでした。

ゴツゴツした決して平面ではないグラウンドでホールインワンが多数出たのは練習の成果か、はたまた奇跡か。ホールインワン賞は田中幸子さんをはじめ8人が対象となりました。皆さん複数回です。一発で決める、これが闘争心を高揚し、さらに気分がスカッとなります。これがあるのでやめられません。

このところ五ツ又グラウンドゴルフ大会は結構な人気で、年々参加者が増えています。やっていてストレスがたまらないのがその理由。リピーターも増えています。



餅は餅屋へ、いえ自分で

1月11日森の公園で、平成27年新春餅つき会が開催されました。これ以前の10日間カラカラ天気でしたから霜柱は周辺部のみ、前日までの強風もおさまって会場の状況は極めて良好。日当たりもよく割と暖かでした。用意した餅米は60kg、前夜自治会館に集まった理事により冷たい水にもめげず15回に分けて米を研いでいただきました。ありがたいことです。当日は夜明け前の朝6時から準備始動。まつり保存会、各クラブの皆様と理事。毎度毎度ありがとうございます。

参加者は昨年と同じく800名程度、ちょっと少なかったかも。連休の中日でしたからね。そのためお餅は100人分ほど残りまして、スタッフ全員に行き渡りました。



北小ウィングクリスマスお楽しみ会

12月20日土曜日、北小体育館でお楽しみクリスマス会が開催されました。参加者は70名ほど。体育館は決して温かい環境ではありませんが、子供は元気。さすがに半ズボン姿はありませんでしたが、寒くなったら走り回るのが子供の特技です。大人は震えているだけ。

紙でっぼう、ビンゴなどなどいくつかの遊びに興じてました。いい思い出になりましたか。



地区会を開きましょう

毎年、この時期になると自治会の新しい理事を選出します。すでに選出方法が決まっています、新旧理事の間で円滑に引継ぎがされる地区はいいのですが、引き継ぐべきお隣が老齢やお病気などで就任不可能であるとき、どのように対処されますか。現理事が地区内を走り回ってご苦労されても、なかなか趣旨が通じるものではありません。

そんな時はぜひ地区会を開きましょう。皆さんいろいろご都合があるので時間は1時間程度にします。場所は自治会館を使えます。会館使用は根本副会長（16区）か峰尾委員（3区）に申し込んでください。日時が決定したら地区内で回覧等で開催を通知し、根本副会長に連絡下さい。地区会に役員は参加できませんが、開催のお手伝いをします。自治会からの補助でお茶代程度ですが150円／人が支給されます。

訃 報



●根岸 章氏

30区の根岸 章氏が1月5日、ご病気で急逝されました。前日までバードゴルフをされていてお元気だったのですが、急に体調を崩されてお亡くなりになりました。享年75歳でした。

根岸氏は川越市交通安全協会理事として川越市行事の警備、五ツ又まつりの際の山車・神輿巡行、盆踊り会場の交通安全のためご活躍されました。五ツ又まつりの折に制服・制帽でにこやかに赤色誘導棒を振っていた姿を見かけた方もいるでしょう。

葬儀は1月14日大仙波、川越警察署そばのメモリアルホール川越でご家族と会場に収まり切らない多くの弔問客を得てしめやかに執り行われました。地区内の方々も多く参集されていました。

根岸さんのお人柄からなのでしょう。合掌。



●都甲徳一氏

6区の都甲徳一氏は、病気療養中のところ1月28日逝去されました。享年85歳でした。

都甲氏は生前、民謡をたしなみ、尺八とご自慢の声で親和会の集まりには盛り上げ役として活躍され、また防犯パトロール隊員として、毎朝五ツ又交差点に立たれ北小児童の通学の安全に寄与されました。

葬儀はお通夜が2月1日午後6時から、告別式は翌2日午前11時から東上セレモニーホール鶴ヶ岡で行われます。合掌。

▶▶▶▶▶▶▶▶ 話のネタ ◀◀◀◀◀◀◀◀

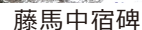
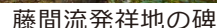
日本舞踊、ある流派の発祥の地

江戸時代、将軍綱吉の治世であった元禄時代は庶民文化の隆盛期であり、絵画・陶芸・芸能・文学（俳諧）など多くのものが発展した。その一方で、赤穂浪士の仇打ちがあったり、生類憐みの令が施行されたりと政治的にもさまざまな事件が起こり、世情なにかと騒がしい時期でもあった。さらに元禄末になると房総半島沖でM8.2の大地震が起こり、同日に大分でも大地震が起こった。この時期の地殻変動は激甚でこの地震を契機に駿をかついで元号は宝永に改められたものの収まることなく、宝永時代の7年間は青森の岩木山から浅間山、三宅島、阿蘇山、霧島・高千穂山、桜島が噴火した。富士山（宝永火口）まで噴火した。大地震は羽後・陸奥で発生したあと、最たるものが紀伊半島沖を震源として発生している。M8.5～9.3の規模で、数万の死者を出した。この地震は現在言われている東南海地震のモデルとされている。

こんな世情騒がしい時期に川越藤間から兄弟2人が江戸に向かって出立した。名は新井勘兵衛と新井勘左衛門である。新井家はもと京都嵯峨にいて、家業は医と薬であったが、兄弟の父の代に川越藤間の地に移住した。その後川越藩主酒井家の侍医を勤め、また「一角丸」という胃腸薬を製造し、武蔵・江戸・相模まで行商していたという。

この兄弟は家業を決して好きではなかった。兄は狂言に長け、弟は三味線に長けていた。この芸能の才能を伸ばしたいと思うのは人情である。行商の道すがら、あちこちの地域に知己は多かったらうからどこに行けばどうなるものか算段はついていたらう。川越から江戸日本橋までは11里、途中、大井・大和田・膝折・白子・下練馬・上板橋・板橋の七宿（川越・大井間に藤馬中宿がある）あったが、健脚には1日の工程である。現に3年前の大地震

以上は新井家の奥様に伺い、資料もいただいたが、奥様が300年前の出来事をあたかも昨日のことのように話されていた。新井家にとってこの記憶はいつまでも新鮮なのである。



市内に増えつつある空き家問題



川越市は「川越市空き家等の適正管理に関する条例」を平成25年4月から実施しました。この条例は、空き家等が管理不全な状態となることを防止することにより、生活環境の保全及び防犯のまちづくりの推進に寄与することを目的とするものです。この実現のため、市が空き家所有者に対し空き家の保全管理を必要な措置の指導・勧告を要請し、消防・警察も協同してこれに当たる権利を持ったこととなります。市民は管理不全の空き家の情報を市に対して提供しなければならないとしています。空き家放置は個人の私的権利としてとらえる従来の考え方に行政が関与することになりました。

1月4日の理事会において五ツ又地区に存在する空き家の調査を各理事に依頼しました。目的は火災予防です。空家にかかわる問題はポストに投函されたままのチラシや枯れ草です。時間がたてばカラカラに乾燥します。つまり火をつけやすい環境となります。

昨年末から埼玉県内では各地で空家・建築中など住人不在の家屋に火をつけるという悪行がはびこっています。川越市では清水町で1件発生しました。空き家なら放火しても死人が出ないとでも考えているのでしょうか。

街ができて50年もたてば1世代が過ぎ、住人のない住居ができて不思議ではありません。川越市はこの手の家屋が多いといわれています。空家が広野の一軒家ならいざ知らず、四方に家が建てこんでいるのでしたら、放火でもされて延焼したら大変なことになります。

どんな事情でその家屋が空家になっているのかに関して行政は興味ありません。いま現在、住んでいる方がいるのかどうか、いないとき管理されていない状況下で間接的に被害をこうむる人がいるのではないかと。そこに興味があります。その状況をご近所が把握し注意する環境を作るのが今回の調査の主旨です。ご協力ください。

